

NPOによる新たな日常に即した活動を検討するワークショップ事業「地域ワークショップ」みえきた報告

タイトル 私たちが紡ぐ 新しい地域づくり~コロナとともに~

日時:2022年1月29日(土)13:30~15:00

場所:オンライン(Zoom)

参加者:34名

ゲスト: コミュニティハウス縁(桑名市) 堀野愛子さん 瀬古麻衣さん

みらいへの一歩(東員町) 笹岡余史子さん

いなベ子育てネットワークいなこね(いなベ市) 服部純子さん 後藤要枝さん

ファシリテーター:日沖 由佳さん(NPO 法人ネットワークくわっこ)

スタッフ NPO 法人みえきた市民活動センター 加藤等、近藤順子、太田みよ子

参加団体:

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ・みえきた市民活動センター | ・NPO 法人ネットワークくわっこ |
| ・桑員まちのファンクラブ | ・桑名市市民活動センター |
| ・東大手の会 | ・産前産後ケアパーク |
| ・NPO 法人生ごみリサイクル思考の会 | ・株式会社三十三総研 |
| ・津市NPOサポートセンター | ・デンソー大安製作所 |
| ・いなベ子育てネットワークいなこね | ・いなベ市社会福祉協議会 |
| ・NPO 法人ヴェリタス | ・訪問看護スマイルステーション紫苑 |
| ・コミュニティハウス縁 | ・東員町社会福祉協議会 |
| ・桑名市南部地域包括支援センター | ・グリーンクリエイティブいなベ |
| ・NPO 法人いなベ子ども活動支援センター | ・いなベ市 |
| ・とういん市民活動支援センター | 個人 ・桑名市議会議員 ・いなベ市議会議員 |

主催:三重県

実施主体:NPO 法人みえきた市民活動センター

NPO 法人みえ NPO ネットワークセンター(みえ市民活動ボランティアセンター指定管理者)

<報告>

1. 挨拶・趣旨説明 近藤順子さん (NPO 法人みえきた市民活動センター理事長)

この事業はみえ NPO ネットワークセンターが三重県から委託されていて、県内5ヶ所(伊勢、松阪、津、四日市、みえきた)で行っている。今日4ヶ所めで、桑名市、東員町、いなベ市の 3 団体の活動紹介と、コロナ禍の中でどのように工夫して活動をしてきたかについてトークをしていただく。オンラインでの開催のため、チャットを利用して質問、共感したこと、団体へのメッセージなど書いていただき、交流したい。会の終わりにアンケートをお願いするので、協力お願いしたい。報告のために録画はするが、動画配信はしない。了承ください。

ファシリテーターの NPO 法人くわっこの日置さんお願いします。

2. 活動紹介

桑名市のコミュニティハウス縁、東員町のみらいへの一歩、いなベ市のいなベ子育てネットワークいなこねの順

番で活動紹介をしていただく。

(1)コミュニティハウス縁(桑名市) 堀野愛子さん 瀬古麻衣さん

堀野は看護師、瀬古は介護士・保育士の資格をもっている。それぞれ学校を卒業し、同じ職場の同僚であった。出会って 20 年、職場ではレクレーション係で忘年会や慰安会の企画をしていた。この写真は忘年会の様子で奮起づくり賞、バックアップ賞をいただいた。みんなに喜んで委託ことが大好きな 2 人が立ち上げたのが、コミュニティハウス縁である。20 年経っても私たちは変わっていません。この写真は仮装をしている、ハロウィーンで楽しい時間を過ごそうという企画のときのもの。大切な仲間と映っている写真です。

どうして縁が生まれたか。フルで働いていたのですが、出産、育児のため家に入った。社会からの疎外感を持った。違う自分になってしまった。初めての主婦、育児、毎日一生懸命こなしても、当たり前にも思われている。先ほどの写真にあったように表彰されない、褒められない。子育て中は喫茶店で話をしたくてもおしゃべりできない。おしゃべりは堀野の家か瀬古の家になってしまった。来てもいいよって言ってくれる場所があったらな、一生懸命主婦や育児をしている自分を肯定してくれる場所があるといいなと思っていたら、私たちだけではなく、介護をしている人、介護をされる人、学校に足を運べない人、その家族、病気の人、看病をしている人、そういった人のもやもや感や誰に伝えたいんだらうという思いが解消できるといいなと熱い思いを語り合っていた。語り合って 15 年が経った。その思いがだんだん大きくなっていった。このドラム缶は瀬古のお父さんがつくったドラム缶でこれをピザ窯にしてみんなでほっこりできる場所をつくろう、つくりたいと思った。場所さえみんながあればほっこりできる。

思いを、言葉をカタチにしたら、たくさんのご縁ができて、コミュニティハウス縁を設立することができた。場所ができたら、お手伝いをしてくれる仲間ができた、増えた。

2020 年 8 月 1 日にコミュニティハウス縁ができた。ロゴはコロナの時にできた大切なロゴである。息子の高校が休校になって、息子に作ってほしいと言ったら、美術が得意な子に頼んだ方がいいということになり、交渉して高校生の感性で生まれたロゴである。丸い縁が、ご縁の縁、縁側の縁である。この場所の縁側はとても素敵である。来ていただきたい。思いがしっかり詰まった縁である。このロゴもコロナがなかったら高校生は忙しくてつくってもらえなかった。

コロナ禍の中での立ち上げ、活動となったが、手伝ってくださるみなさんのおかげでオープンできた。第1金曜日は、健康が大切ということで健康体操をしている。コロナ禍なので密を避け、感染予防をしっかりして、天気の良い暖かい日は外で体操をしている。その際に、血圧についてヤカルシウムがどうして必要なのかの小話をしている。子どもたちもお休みの日には一緒にしている。

嬉しいことは、

- ・近くの人がほっこりきてくれる。
- ・こんにちはと玄関をあけて、今日はやってる？と聞いてくれ、顔出してくれる。
- ・この子連れてきた(子と言っても子どもではない)といっている話をしにきてくれる。
- ・みんながほっこり笑ってくれる

である。最初は縁もゆかりもない土地ではじめて、信頼関係がつかれない、何だろう？と思われた方もいたと思うが、チラシを持って挨拶に行ったり、活動を紹介したり、1年かけて信頼関係をつくってきた。玄関に来てくれることがとても嬉しい。縁に来てくれた人がほっこり笑ってくれるのが嬉しい。

人と人のつながりを大切にしたい。ほんのひととき、笑ってすっきりしてほしい。縁に行くと、何とかなると思えるようになってほしい。近所のおばちゃんの家になりたい。

昨年のお花見の写真である。地域の人と子育てママさん、子どもと2、3組で走井山に行った。後ろから見ていて、

これが縁だよ、同じ時間を、世代を超えて笑いあえる、と話をした。

みんなのこれができる、小さな出来る、を集めて素敵な場にする。これならできるよ、というコミュニティの橋になる。芋煮会も行った。みんなに作って食べてもらおうとしたら、この赤い服の人がいつの間にかおたまをもっていてしきっていた。このように地域の人、自治会、包括センター、各種団体、市民活動団体と連携をとって、みんなが笑顔で過ごせるまちづくりのお手伝いをしたい。

急いではいけません。ぼちぼちとやっていきたい。細く長くやっていきたい。応援してください。

FA:笑顔あふれるまちづくり、素敵である。今までどのようなお手伝いをしてきたのか。

:最近では、寺町商店街でホットの生レモネード(くわなジュース)を販売して、小児がんの活動に寄付をした。寒い日だったが、子どもたちも参加した。地域の方とも交流ができた。

FA:チャットに飲みましたという声がある。玄関にフラットと入ってきてくれるのが嬉しいという話があったが、玄関に気軽にフラットは入れる工夫はあるか。

:季節を感じていただくイベントを行っている。コロナで中止にもなっているが、お雛さま会などを行っている。

FA:すごく古いお雛様があると聞いている。

:この写真のように御殿付きのお雛様で、この家の方のお雛様がある。ここに甘楽もあり、寄付されたお雛様が入っている。こういう時期ですが、のぞきに来てください。

FA:大正時代、生まれる前のお雛様を見る機会はなかなかない。オレンジカフェもされている。

:第3火曜日にオレンジカフェを開いて地域の方と囲碁をしたりしている。認知症サポーターの勉強している。参加したい人は声かけてほしい。地域の取組を一緒にしていきたい。

FA:いろいろなイベント、とても素敵である。

(2)みらいへの一歩(東員町) 笹岡余史子

東員町の子ども食堂の活動である。紙芝居で説明する。みらいへの一歩、なかよし食堂と書いてある。みらいへの一歩は、一歩ずつ進んでいけるように名付けた。この字も友人に書いてもらった。なかよし食堂は一緒に始めた方と考えた名前である。

子ども食堂を始めたきっかけは、20年位前から介護の仕事をしている。地域に寄り添うとはどういうことかと考えていた。今も考えている。地域が元気になるためには、人が元気にならないといけない。子どもが元気にならないといけない。そう考えていた時に、子ども食堂に出会った。

子ども食堂をやりたい!と発信した。たくさんの方と出会うことができた。興味のある人、一緒に活動してくれる仲間、提案してくれる人、寄付をしてくれる人。私と同じように子どもを支えたいと言う人がいる。一人ではないと思った。みなさんに優しくしていただいて元気になる。その力を子ども食堂の力にする。

みらいへの一歩、なかよし食堂が大切にしていきたいこと。

- ・みんなでご飯を食べよう。
- ・ささえあいの気持ちを大切にしよう
- ・ただいま、おかえりが言える居場所をつくろう

美味しいごはんをみんなで食べれる誰もが気軽に來れる場所、である。貧困家庭の人のためだけではない。みんなと気軽にごはんを食べることである。

- ・支えあいの気持
- ・孤食を防ぎ、コミュニケーション、学習支援、食育、支援物資の提供
- ・人と人とのつながりが生まれる活動にしたい。

ただいま、おかえりは魔法の言葉だと思っている。子ども達と子ども達を取り巻くみなさんの居場所づくり。一人でしているわけでないし、一人ではできないので、皆さんの少しの力を貸してくださいと言った。食材の寄付、応援費の寄付、少しの力が大きな力になる。

(動画=なかよし食堂の様子)

今はコロナのため、配食にしている。感染状況を見ながら、人と人が触れ合える時間をつくっている。みらいへの一歩をスタートして1年になる。コロナ禍であった。コロナ禍だから準備が出来たと思っている。これからも頑張っていく。

FA:親になると、ただいま、おかえり、いってらっしゃいと自分に言ってもらえることが少なくなる。言ってもらえると嬉しい。子どもにも大人にも嬉しい魔法の言葉である。動画を見たが、色々な人がいた。男性も関わっていた。どうやって人を巻き込んだのか。

:~したい、という気持ちの表現をした。どこにいてもしたいことを伝えた。いろんなところで表現している。地域性もある。小さい町なのでここにいると伝えると、応援してくれる人が多くて、親以上の人から助けていただいていることが多い。

FA:子ども食堂の需要が高まっている。子どもだけでなく、高齢者、いろいろな方を巻き込んでいます。みんなの家のようである。目指していることが伝わってきている。この「みらいへの一歩」という字がとても素敵である。
:習字の先生をしているママ友がいて、気持ちを伝えていくつか作っていただいた。もともとこの方の字が好きだった。

FA:動画がわかりやすかった、東員町で子ども食堂をしていることを初めて知った、といったチャットコメントがある。みんなの食堂の新たな展開が生まれそうである。この食堂に来ていただく声かけや工夫はあるか。
:自分の子どもに伝え、子どもに子どもたち同士で伝えてほしいと言っている。地域の回覧板に回してもらおう。自治会長に協力していただいている。口コミが多い。一人でも多くの子どもの知ってほしいと思っしてほしい。

FA:地域も巻き込んでとても素敵である。自分が優しくしてもらって元気になる。そして元気を分ける側になっている。優しさや元気が広がっていることが素敵である。食堂のお手伝いをする方は料理が出来なくても大丈夫か。
:私も料理が得意なわけではない。誰をリーダーにもってくるか、誰がそのお手伝いにするか、である。男性の力も必要である。ごはんづくりだけでなく、場所づくりの準備もある。何かできることを言っただけだと役割がある。こちらもここを助けてほしいと伝えている。

FA:料理ができなくてもできることがあるというのは素敵である。男性にもできることがある。食べるだけでなく、居場所になることを感じた。

(3)いなベ子育てネットワークいなこね(いなベ市) 服部純子さん 後藤要枝さん

いなベ子育てネットワークいなこねである。オープンしたばかりだがチャレンジショップができた。今日はチャレンジショップにあるサロンスペース、ワークショップや講座を実施するスペースからオンラインをしている。

作家さんの委託販売をするチャレンジショップができて、また新しいつながりができた。いなこねってなに？とよく聞かれ、子育てなのでママたちの活動と言われるが、目指しているのは地域づくりである。このチャレンジショップは、地域の人にふらっと来ていただける場所、拠点がほしかった。子ども食堂とフードパントリーはしているが、お店と事務所を持てる場所がほしかった。

地域の人たちと主に子ども食堂の活動をしていたが、2回実施してコロナ禍になった。一緒に食べること、会食ができなくなった。活動を辞めるのではなく、食品の無料配布を行うこととした。フードパントリーを月1回している。配布する人、寄付する人、応援してくれる人を募ることが大切だった。地域の方から寄付をいただいているが、いなベ市外の方からもいただいている。企業にも協力していただけるようになった。なんとか成り立っている。食品をただ配るのではなく、関係性をつくっていく。たくさんの人に配布しなくても、できる範囲で人数も何十人、何百人に配れたらいいが、長話はできないけれど話しをしながら少しずつ信頼関係をつくることを大切にしている。連絡を月1回取り合うなかで、連絡がこないと心配したり、一人親家庭や困っている家庭の方と会話をし連絡を取り合うことを大切にしている。LINEでやりとりをしている。始めてから半年がたち、カタチになってきた。まだまだフードパントリーの仲間を増やしていきたい。市外の方からも声がかかり、食品を取りに来られる方もいる。

コロナ禍でマルシェができなくなった。ハンドメイドのモノを売る場所がない。コロナの影響を受けている方、お客さんも気軽に活動できる場所がほしい。古い空き家のためかなりの修繕が必要で1年かかった。7名でやったが、店舗改装に時間がかかった。地域の方に助けていただいた。チャレンジショップいなこねを見ていただきたい。店の中をみていただきたい。

FA:いろいろなことをされていると感じた。コロナだけでなく、雪も多く、フードパントリーができないかもとおっしゃっていたが、拠点が出来てできるようになったのか。他にいろいろできることがあるか

:オープンして1週間、毎日いろんな人が立ち寄ってくださる。モノを売ることも大切だが、交流を大切にしている。話す場として大切にしている。今店舗を映して紹介しています。40人くらいの作家さんの作品である。

(いなベ)市外の方にも納品していただいている。

FA:これは紹介したいというものがあるか。

:みんな紹介したい

FA:メンバーも出展しているか。

:メンバーも出展している。

FA:40の作家さんをどう集めたのか。

: SNS、メディアである。口コミが一番だと思う。一人の作家さんが知り合いの作家さんに「こんな場所があるよ」と伝えてくれている。毎日問い合わせがある

FA: SNSはコロナでなってから情報発信ツールとして必要とされているが、インスタのフォロアが1000人を超

えている。インスタ以外で活用しているSNSはなにか。

:LINEである。フードパントリーは公式ラインをもっている。フェイスブックも使っている。それぞれの方が作家さんとシェアしているため、一つつながると枝葉のようにつながっていく。

FA:コロナになって子ども食堂ができなくなって、フードパントリーにシフトチェンジをした。育児や家事をしながらどういう時にそういったことを考えるのか。

:常にアイデアが次から次へと、やりたいことがでてくる。言うだけで、一人ではできないので、仲間づくりが大切である。イベントを開催もいなこねだけでなく、他の団体とつながることにしている。社協やいなベ市、他の団体とつながることが大切である。一人では無理ができない。子育て中でもできる活動、無理はしない。家事・育児・仕事が優先であり、その次にボランティアという順番である。

FA:いなこねのフォロアの方も参加されているので、まだフォロアになっていない方はなってください。

(4)3 団体とのトークセッション

FA:コロナ禍での取組についてお聞きしたい。3団体ともお子さんもいらしてコロナ禍で休校などあったと思うが、コロナ禍で困ったこと、立ち止まりそうになった話があればお聞きしたい。

コミュニティハウス縁(以下縁):困ったことはみらいの一步さんと同じである。思っていることややりたいことがたくさんある。立ち上げからやりたいことがたくさんある。今足踏みしながらウォーミングアップしている。ゆっくりしている。中止になったイベントもたくさんあり、チラシが裏紙になってしまった。そうやって進んでいる。

FA:ウォーミングアップという素敵な考え方である。チャット欄に「夫は?」というコメントがある。家族の協力が得られないと活動が出来ないと思うが、先ほど家事優先という話があったのですが、家族の協力についてはどうか。家族を巻き込んで活動をしているのか。いなこねさんにお聞きしたい。

いなベ子育てネットワークいなこね(以下いなこね):自分達の場所ができたので気を遣わずに自分たちの子どもを連れてこれる。子どもと一緒に1日いることができる。子ども同士で遊んでいる。もしくは、旦那さんがここに来て見ている。家族が活動しているところを見るというのも大事である。理解を得るうえで大切である。イベント開催の時にも旦那さんは来て、子どもは小さい時からボランティア活動を見る。強制ではないが、子どもたちもお店当番等参加する。子どもも参加型にする。

FA:活動に子どもを巻き込む、パートナーさんが見てくれている、素敵である。みらいの一步さんでは、家族を巻き込んでいるか、それともお留守番をしているか。

みらいの一步(以下みらい):写真に男性があったと思うが、一人が旦那さんである。一番の理解者である。やりたいことに背中をおしてくれている。ありがたい。今日はここで食べてと身近なところから巻き込んで理解してもらえるようにしている。子どもの学校が休みだった時にフルタイムで仕事をしているので子どもだけになってしまう。場所があるといいなと実感した。

FA:自分の思いを伝え続けることは家族に対してもとても大切である。言葉には力があるということを感じていて感じた。でも、活動していくためには思いだけではできないこともある。改築に1年くらいかけたとい

う話だが、それなりの労力とお金が必要である。どう工夫されたのか。7名ではできない。

いなこね:7名ではむずかしい。何にどう困っているかを発信した。できないことを助けてくださいと言ってきた。そうすると集まってきてくれる。今、ボランティアグループ「いなこねお助け隊」に37名の方が関わってくださっている。

FA:いなこねお助け隊、素敵である。活動している人はすごくできる人と思われがちだが、困っていることを発信するのが大切である。縁さんの人を巻き込む工夫は何か。

縁:自分の子どもが、4人、3人とたくさんいる。子どもたちの友達の親のつながりで、得意なことを手伝ってほしいと伝えて助けていただいている。広がっていく。私は発信だけ、他なにもできない。広報部である。あとのことは支えてくれている。みんなが助けてくれている。

FA:みらいさんにお聞きするが、偏見を持たれてしまい、地域の理解を得られない子ども食堂もある。自治会の理解があるという話だったが、回覧版以外にどのような協力を得ているのか。

みらい:メンバーに民生委員さんが多い。ありがたい。地域のことが分かっている人たちである。一緒に子ども食堂をしていこうという思いが一つになった。自治会長、自治会に理解をしていただいている。色々なことを想っている人はいるが、ボランティアでやっているということが強い。親の上の世代の人たちが大切にしている地域をカタチにするだけである。掲示板に貼ったり、介護の仕事をしているのでそこでも発信している。

FA:メンバーに民生委員の方が多くはどうか。自然に関わってくださったのか、声をかけたのか。

みらい:桑名で子ども食堂をしている「太陽の家」の方が、東員町に子ども食堂がなかったため、立ち上げるための人を育成しようと講座を行った。その時には私は子ども食堂と出会ってはいなかったが、講座に参加していた民生委員の方が、市民活動支援センターから「みらいの一步」を紹介されて出会うことができた。

FA:地域の理解を得るのは大切だと思うが、チャットに縁さんへの質問で、「近所への周知や信頼獲得の際に留意していることは何か」というのが来ている。

縁:不審者でないことを知らせる。名札をいつもして、見せる。看護師、介護福祉士、保育士という資格を見せる。名札を下げて、チラシを配って、会って直接話をして、顔と顔、人と人という感じを大切に話かけている。来ていただいた方に皆さんが広報部です、と伝えている。皆さんに、縁に行ってみようよと声をかけていただけるように心がけている。

FA:いなこねさんにお聞きする。お客さん同士、お客さんと作家さんとまちづくりを目指している。今後こういうこともしたいということはあるか。夢がたくさんあるとおっしゃっていたが。

いなこね:結局ボランティア活動をしているのは、まちづくりをしたい、ということである。それが何かと言われると答えは一つではないし、方法も一つではない。人や行政に頼るのではなく、自分達がしっかりしたものをもっている。動いていく。そうすると賛同してくださる方が増えていく。他力本願ではなく、自分が動く、自分が参加する。

FA:自分が困っていたことを他の人が困っている。誰かのために何かをしたい。そんな思いを共有した人が動いていた。団体のリンク先をチャットに貼りました。どんどんつながってほしい。広報部になっていただきたい。直接つながる方法もある。みらいの一步さんのこういう展開をしたいということは何か。

みらい:コミュニティセンターを拠点に活動、配食をしている。東員町に子どもたちに、そんなことをしている人がいる、何をしているのかなと思ってほしい。1食でもごはんを作らないことでお母さんが子どもに関わる時間ができる。今東員町にはもう1ヶ所子ども食堂があるが、それぞれの点を線にしたい。そして1ヶ所で活動するのではなく、移動販売をしたい。東員町の新しくできた団地ともとの地域を一つにつなぎたい。協力していただきたい。

FA:拠点があるからこそできることと、拠点をもたないからこそできることがある。みなさんの夢は尽きないと思う。子育てがしにくい世の中で人と人がつながること、点であった団体がつながり線になること、そんな話を伺い、桑名、東員、いなべ、他地域とつながることができるといい。

イベントができないコロナ禍でスタートされて、すごく反響があった活動、コロナ禍でもこんなことができるということがあれば聞かせてほしい。

いなこね:活動はあまりない。人と対面ではできないので、オンライン、SNSが強化されてよかった。マルシェがなくなり、チャレンジショップに委託される方が多くなった

縁:先ほども言ったが、健康体操である。コロナ禍で動かないことが多くなるため、コロナフレイル、足が動かなくなり、話すのが下手になるといった方が増えている。看護師であるため、数名でも、不安をなくすためにも体操は続けてしていきたい。検温や感染対策はきちんとしている。細々と続ける。コロナになったからできないという選択はなしにしたい。

FA:団体運営している側、親などいろいろな立場をもっていらっしゃる、特別な方が活動をしているのではないということを感じた。私にはできない、ではなく、できることがあると思う、なんとかできないかと一歩を踏み出したみなさんである。つながることで皆さんの一歩になればと思う。自分の思いを内にとどめるのではなく、オープンにして人に伝え続けていただきたいと思う。

4. 各団体からのメッセージ

縁:初めての発表だったが、聴いていただきありがとうございます。火曜日と木曜日の9:30~14:00にオープンしているので、もやもやしている方、ほっこりされたい方はいらしてください。オレンジカフェは第3火曜日である。お雛様も飾る。縁側ものぞきにきてください。

みらい:早くコロナが退散してほしいと願いながら、人と人が少しずつつながっていく世の中になるように、みんなが変わらず継続して活動していく。魔法の言葉、元気に、いってらっしゃい、ただいま、おかえりをみんなで言えるようになりたい。

いなこね:お店をオープンした。これからが大事である。人が集まる居場所、安心できる居場所づくり。いなべ市のSDGs認定を受けた。行政と一緒に何かイベントをしたい。目標である。

FA:活動が広がっていく。楽しみである。つながって応援していただきたい。

5. みえ市民活動ボランティアセンターのコメント

3団体の活動報告からいくつもの大切なキーワードがあった。ぼちぼち、小さく、少しずつ、など。そして共通していたのは「自分」が軸であり、思いが揺るがないということ。「自分」に問いながら活動を進めていらっしゃる。コロナ禍でもブレることなく、その時に合う活動(ロゴの制作、活動の準備・ウォーミングアップ、配食への移行)を考え、工夫し、実践されていた。すごい!